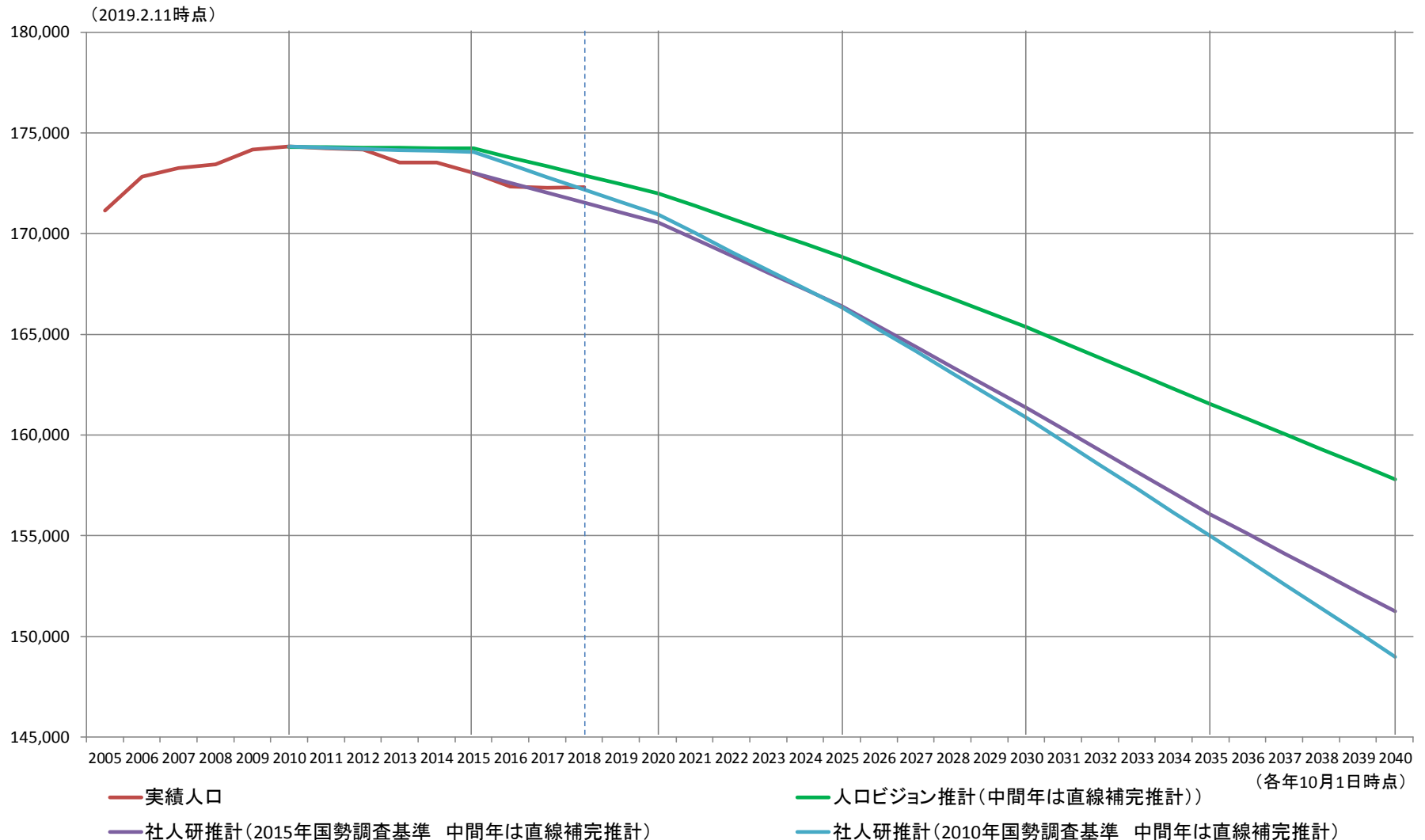


人口推計結果(2019.2.11時点)

直近の人口動向と各種推計値との比較

- 人口ビジョン推計、社人研による2010年国勢調査を基準とした推計（「2010推計」）とも2010年までの増加傾向を反映して2015年までの推移を横ばいと見込んでいたが、実績はこれを下回った。
- 社人研による2015年国勢調査を基準とした推計（「2015推計」）について、2015年時点では2010推計より少ないが、直近の傾向は2010推計で想定している減少率より緩やかであるため、その傾向を反映した2015推計は2025年以降に2010推計を上回る。



※「実績人口」は国勢調査の結果を基礎として住基基本台帳法の定める届出等の増減を加算して推計したもの

推計方法

○使用データ

＜基本推計データ＞

- ・ 基準人口 : 2015年 国勢調査 参考表 年齢・国籍不詳をあん分した人口 年齢（5歳階級）別、男女別人口
- ・ 将来生残率 : 国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）』の仮定値
- ・ 子ども女性比 : 社人研仮定値を活用し、2050年以降は2045年の値を仮定
- ・ 純移動率 : 社人研仮定値を活用し、2045年→2050年以降は2040年→2045年の値を仮定

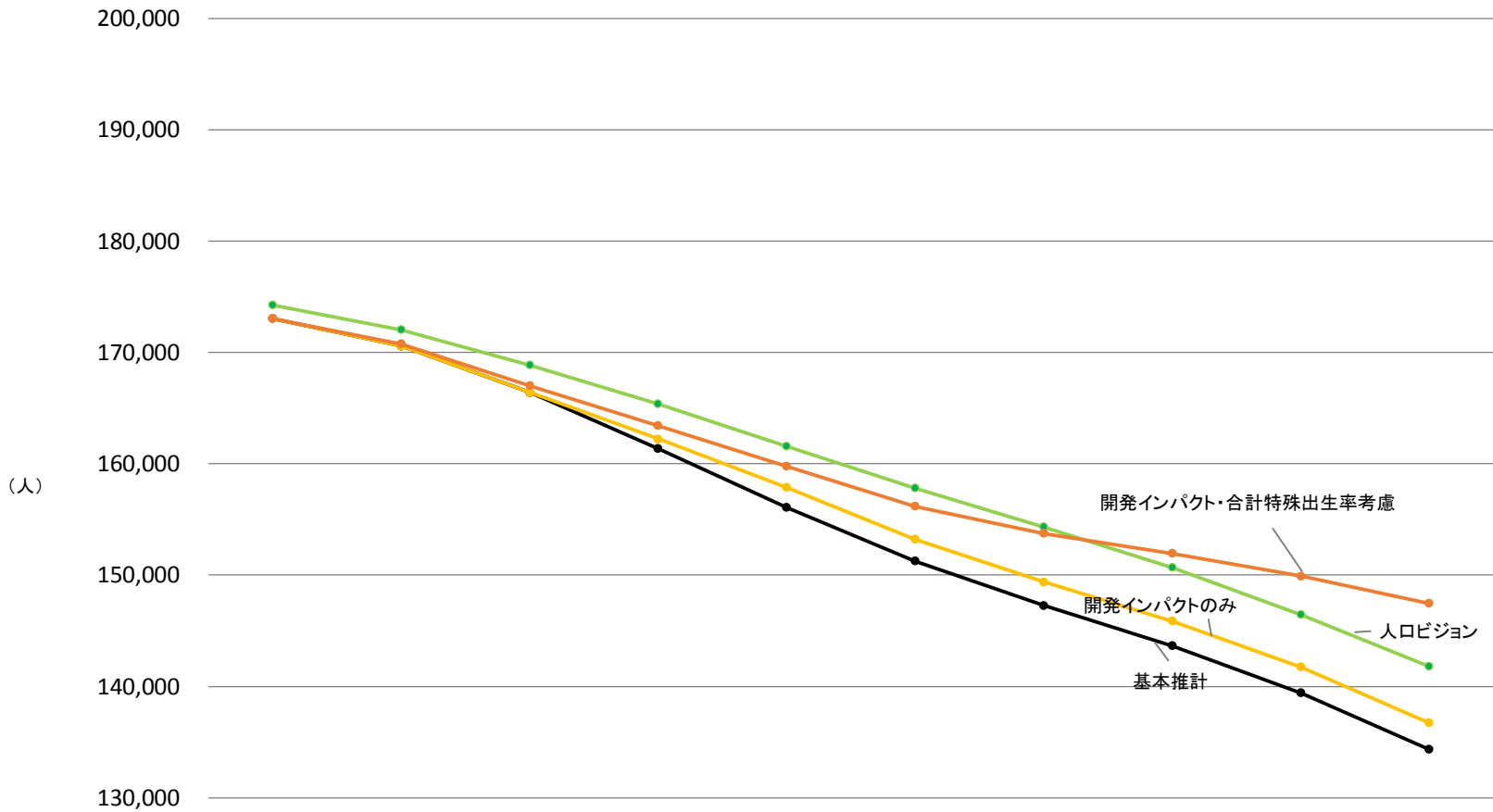
＜開発インパクト・合計特殊出生率を考慮した分析のデータ＞

- ・ 開発人口 : 2,500人
- ・ 開発インパクト設定年 : 2030年、2035年に等分割
- ・ 市外からの転入人口の算出 : 住民基本台帳より、2013年～2017年における性別・年齢階級（5階級）別の市外からの転入人口ならびに市内転居人口の比率を用いて、性別・年齢階級（5階級）別の市外からの転入人口を算出
- ・ 合計特殊出生率の動向を考慮した子ども女性比の算出 :
2017年までの鎌倉市の「合計特殊出生率(tfr)の実績値（2001年～2017年）」ならびに「子ども女性比の実績値（2005年、2010年、2015年国勢調査データ）」から両者の「換算係数（子ども女性比／合計特殊出生率）」を算出し、子ども女性比を算出

○推計パターン

	基本推計 (2015年国勢調査を基準とした 2018年社人研推計と同設定)	開発インパクトのみ考慮	開発インパクト・合計特殊出生率の 動向考慮
生残率	社人研仮定値を活用し、2045→2050年以降は社人研仮定値の2035→2040年、2040→2045年の変動分を加味して仮定		
子ども女性比	社人研仮定値を活用し、2050年以降は2045年の値を仮定		2018年以降、2008-2012tfr平均 →2013-2017tfr平均の増加幅の平均値 と同様のペース（tfr0.0128/年）で上昇。 なお、tfr最大値は2060年に1.73
純移動率	社人研仮定値を活用し、2045→2050年以降は社人研仮定値の2035→2040年の値を仮定		
開発インパクト		開発人口2,500人を、2030年、2035年に等分割して考慮	

推計結果



※2019.2.11時点(人)

	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
●基本推計	173,019	170,567	166,394	161,353	156,053	151,238	147,247	143,613	139,400	134,332
●人口ビジョン	174,231	172,005	168,850	165,357	161,542	157,804	154,305	150,674	146,418	141,788
●開発インパクトのみ考慮 2030年 2035年に等分割	173,019	170,567	166,394	162,219	157,857	153,197	149,369	145,868	141,738	136,723
●開発インパクト・合計特殊出生率考慮 tfr0.0128/年単調増加 2060年1.73	173,019	170,739	167,015	163,401	159,774	156,149	153,712	151,923	149,892	147,419